



KONICA MINOLTA

春の星座解説

S-102 (13 分 00 秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

春の星座案内

・ブルー

M 日の入りの音楽

N
A

花盛りの春。

厳しい冬の寒さの後には、命にあふれた春がやってきました。

昼の時間は長くなり、吹く風は暖かく、さくら、たんぽぽ、チューリップなど、きれいな花が次々に咲き始め、心も身体もうきうきしてきます。

夜になっても寒さが気にならず、星を眺めるには、良い季節となりました。

それでは、太陽が沈み、星が輝きはじめるのを待つことにしましょう。

(音楽 盛り上がる)

(日の入り)

(満天の星空)

(音楽 句切りよく終わる)

・ 方位灯

M きれいな音楽

N
A

春の星空です。
冬のきらびやかな星たちに比べ、春の星は春風のように
柔らかく感じられます。

春の星座さがしのポイントは、「北斗七星」と「春の大
曲線」です。

北の空、高いところを見てください。
七つの明るい星が見えます。

線で結ぶと、水を汲む「柄杓」の形になります。

この星々が「北斗七星」。

北斗の「斗」は柄杓のことです。

北の空にある、柄杓の形をした七つの星だから、「ほく
と、しちせい」と呼んでいるのです。

北斗というからには、南の柄杓、南斗もあるのかなと思
われるかも知れません。

実は、南斗もあります。

しかし、この春の星空では見ることができません。

南斗の星は「南斗六星」といって、夏の星空で見ること
ができます。

夏になったら、またこのプラネタリウムに来て、南の空
の柄杓、「南斗六星」を探してみてください。

さて、北斗七星は、星座でいうと「おおぐま座」の一部
大きな熊の腰と尻尾にあたる星です。

この熊、よく見ると、尻尾が長すぎます。

○ おおぐま座

○ 北斗七星

○ 北斗七星

○ 春の大曲線(1)

P アークトゥルス

○ 春の大曲線(2)

P スピカ

P アークトゥルス

○ うしかい座

北アメリカの伝説によると、熊が夜、森の中を歩いていると、周りの木々が話をしているのに出会いました。びっくりして逃げ出そうとする、大きな樫の木は熊の尻尾をつまみ、ぶるんぶるんと振り回して、天に投げ上げました。そのために、こんなに長い尻尾になってしまった、ということなのです。

この、おおぐまの尻尾、北斗七星の柄杓の柄は少しカーブを描いています。

そのカーブをそのまま伸ばしてゆくと、明るい星が見つかります。

さらにカーブを伸ばしてゆくと、もう一つの明るい星が見つかります。

北斗七星の柄から南に向かって伸びるこの雄大なカーブを「春の大曲線」と呼び、春の星座を探すときの、大きな目印になります。

二つの明るい星のうち、最初に見つかった星は、「アークトゥルス」といいます。

意味は「熊の番人」。

星座では「うしかい座」。熊を追う姿です。

- 春の大曲線(1)
- 春の大曲線(2)
- P スピカ

- おとめ座

- 春の大曲線(1)
- 春の大曲線(2)

きつと、「おおぐま座」の熊を追っているのでしょうか。

「春の大曲線」を伸ばして見つけた星で、二番目に見つかったこの明るい星は、「スピカ」と呼ばれる星です。

少し青みがかかったような白さで光ります。

それはまるで真珠みたいに見えませんか？

そこで日本のある地方では「真珠星(ぼし)」と、呼んだそうです。

「スピカ」のある星座は、「おとめ座」です。

この女性は農業の女神デーメテル。

彼女は大地の植物に、命を吹き込む力があるそうです。

しかし、ある季節になると、彼女は地上から姿を消してしまいます。

そうすると、地上の植物は枯れてしまいます。

その季節が、「冬」。

ギリシャ神話では、女神デーメテルがどこかへ消えて

「冬」が訪れるのだと、伝えていきます。

さて、もう一度、「春の大曲線」を見てみましょう。

この大曲線をさらに伸ばしてみましょう。

今度は明るい星ではありませんが、四つつの星が、小さなゆがんだ四角形を作っています。

ここには鳥が星座になっています。

○ からす座

「からす座」です。

この鳥、もとは銀の羽を持ち、人間の言葉を話すことができたのですが、神アポロンに嘘を言ってしまった、怒ったアポロンが言葉を取り上げ、黒い羽に変え、さらに天に上げ、四つの銀の釘で星空に打ち付けている、といわれています。

鳥の身体は黒。

夜の色も黒。

だから、見えるのは銀の釘の頭だけ。

「からす座」の四つの星は、アポロンが打ち付けた銀の釘。

そして姿は見えませんが、今も鳥は、星空にくっついて
いるんだそうです。

次は星空の高いところを見てみましょう。

そこに「はてなマーク」を裏返しした形に並んだ星たちが
あります。

見わかりますか？

「はてなマーク」・・・「クエッションマーク」の形で
す。

答は「こ」

こんな所に並んでいますね。

これは草を刈るときの、鎌の様な形をしていますね。

そこで「草刈り鎌」と呼ぶ人たちもいるようです。

○ 草刈り鎌
線

○ しし座

星座では、この星の並びを、ある動物の頭に見立てました。
それは一番強い、動物です。
もうお分かりでしょう。
ライオンが星座になっています。

しかし、この星座、「ライオン座」とは呼ばず、「しし座」といいます。

日本で最近、余り言いませんが、昔はライオンのことを「しし」と呼んでました。

そこで、星座の方では昔の呼び名で「しし座」といっています。

獅子の胸に、一等星があります。

この星は「レグルス」。

「小さな王様」という意味です。

獅子の尻尾の辺りにも、目立つ星があります。

こちらは二等星の「デネボラ」。

この「デネボラ」と、

初めに紹介した「アークトゥルス」

そして・・・「スピカ」とを結ぶと、大きな三角形ができます。

これは、「春の大三角」と呼ばれています。

P レグルス

P デネボラ

P アークトゥルス

P スピカ

○ 春の大三角

M エンディング音楽

春の星たちは「北斗七星」から「春の大曲線」を伸ばしてゆくと、分かりやすく見わかります。

天の川はこの季節、地平線に横たわり、あまり良く見ることができません。

しかし、季節も暖かくなり、これからは星を見るには良い季節ですね。

どうぞ、今度は本当の星空で、今日紹介した星や星座を捜してみてください。

おわり